



源
注
拾
遺

三

源注拾遺
三





源註拾遺卷第五

玉鬘

一 けりしむら ^{三十一} ○と接 接連なる儀也。

世の中よりけりしむら ^{三十二} けりしむら ^{三十三} けりしむら ^{三十四} けりしむら ^{三十五} けりしむら ^{三十六} けりしむら ^{三十七} けりしむら ^{三十八} けりしむら ^{三十九} けりしむら ^{四十} けりしむら ^{四十一} けりしむら ^{四十二} けりしむら ^{四十三} けりしむら ^{四十四} けりしむら ^{四十五} けりしむら ^{四十六} けりしむら ^{四十七} けりしむら ^{四十八} けりしむら ^{四十九} けりしむら ^{五十} けりしむら ^{五十一} けりしむら ^{五十二} けりしむら ^{五十三} けりしむら ^{五十四} けりしむら ^{五十五} けりしむら ^{五十六} けりしむら ^{五十七} けりしむら ^{五十八} けりしむら ^{五十九} けりしむら ^{六十} けりしむら ^{六十一} けりしむら ^{六十二} けりしむら ^{六十三} けりしむら ^{六十四} けりしむら ^{六十五} けりしむら ^{六十六} けりしむら ^{六十七} けりしむら ^{六十八} けりしむら ^{六十九} けりしむら ^{七十} けりしむら ^{七十一} けりしむら ^{七十二} けりしむら ^{七十三} けりしむら ^{七十四} けりしむら ^{七十五} けりしむら ^{七十六} けりしむら ^{七十七} けりしむら ^{七十八} けりしむら ^{七十九} けりしむら ^{八十} けりしむら ^{八十一} けりしむら ^{八十二} けりしむら ^{八十三} けりしむら ^{八十四} けりしむら ^{八十五} けりしむら ^{八十六} けりしむら ^{八十七} けりしむら ^{八十八} けりしむら ^{八十九} けりしむら ^{九十} けりしむら ^{九十一} けりしむら ^{九十二} けりしむら ^{九十三} けりしむら ^{九十四} けりしむら ^{九十五} けりしむら ^{九十六} けりしむら ^{九十七} けりしむら ^{九十八} けりしむら ^{九十九} けりしむら ^百 けりしむら

一 けりしむら ^{十一} ○と接 等しむらなり。

一 けりしむら ^{十二} ○と接 等しむらなり。

一 けりしむら ^{十三} ○と接 等しむらなり。

一 けりしむら ^{十四} ○と接 等しむらなり。

一 けりしむら ^{十五} ○と接 等しむらなり。

一 けりしむら ^{十六} ○と接 等しむらなり。

一 けりしむら ^{十七} ○と接 等しむらなり。



侍美子に忠見が書名をいひけり。つねに
おもひにたはきこふ。海も名もよりの
はに。おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに
おのの河津よ。津にまに。つねに

重之原

つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに
つづつとよきほひのうらみかへに

一 松浦箱崎 十才 河松浦文のまに
神切皇后 清鏡石のりく 鏡山

何く一辨と云ふ歟。○と按。此河海流を、和浦鏡云
つとまると、鏡山と云ふは、かくけさるゝあり、鏡山、万代
仙は、妙く、孝前風を祀とひけり。万葉集、中にも、
孝前と云ふ事、河海流あり。

一佛は、佛中事と云ふ事、人曰、佛中のうらにを、つたれ
と、
○と按。三代實錄、第二十八、貞觀十八年、五月
廿八日、甲辰、先是、律師法橋上人、位長朗、申牒、備
大和國長谷寺、是長朗先祖川原寺、修行法師位
道明、靈龜年中、享其同類、奉為國家所建立也。靈
像殊驗、遐邇仰止、
又、古公谷、事、靈像、
後、
云々

一つ、
は、
於是大子思、欲聘物部、鹿火、大連、女、影媛、遺媒
人、向影媛宅、期會、影媛曾、好真鳥、大臣、男、
忍、
太子所、期報、曰、妾、
奉、待、海、石、榴、市、巷、
万、
中、
云、

つとまると、
あ、
ち、
万、
し、

さよ。市ハ。きりけのちつをいり。やほらりき。つらぬり。
七谷ちよよまうばる人け。めくじ。そのまや。まうけ。た。記
言はゆえん。つら。や。と。ま。い。入。ま。あ。れ。ま。た。つ。を
い。ら。い。つ。ま。い。つ。ら。い。中。ま。ち。つ。ま。ち。つ。を。い
へり。敏達紀云。有司便奪尼等三衣。禁銅楚。桂。海
石榴市亭。用明紀云。逆君。○潜自山出。隠後宮。謂
屋姫皇后之別業。○同。ま。市。形。あり。つ。と。二。所
是名海石榴市宮。○。ま。後。西。あ。も。満。石。極。多。り。あ。り
名。つ。ら。ぬ。も。ん。し。き。り。

- 一 かしらかたけりく十九才。○と接 搔首と。つりも。作。ま。う。
- 一 ぬゆりぬ対けし。と。あ。り。
- 一 つけんもゆし。と。い。ひ。ゆ。び。 廿一才。○と接 万葉集

秋山とゆめりか。ぬ。と。あ。り。そ。け。り。も。ら。あ。は。り。も。や。ゆ。い。
一 い。つ。ら。い。し。く。め。た。た。る。ゆ。 廿二才。○と接 け。し。く。い。不
ひ。ら。ゆ。り。惜。け。る。ま。を。つ。し。し。し。む。た。ま。か。る。人。け。今
ま。ま。の。あ。り。よ。あ。り。や。あ。ま。ま。お。り。あ。り。と。は。せ。ま。た。叶
と。い。ゆ。た。た。く。る。ゆ。と。つ。た。た。る。あ。く。知。る。新。け。の。の。ゆ。え
一 ひ。た。た。づ。入。ま。ま。づ。入。る。や。う。も。ら。り。 十九才。○と接 結。吟。日記
下。

あ。ね。が。は。け。の。ゆ。う。ら。ぞ。ら。を。ね。あ。ら。ま。ま。づ。入。ま。ま。づ。け。し。け。
一 け。ら。た。 廿一才。○と接 童。女。の。名。あり。け。ま。或。ア。日記。よ。さ。
け。ら。け。り。と。い。ふ。と。た。る。名。あり。
一 ま。う。で。あ。ね。う。ま。ま。づ。あ。ら。と。 廿一才。○と接 万。葉。集。え。
こ。つ。あ。ら。と。す。白。い。と。い。ふ。田。名。ゆ。り。け。ら。と。風。ま。ま。づ。あ。ら。

一 おのれをよめる人ぞ 細源は河は

を此君と云ふ源自称と云ふあり。孟は源をよめる源をよめる

○と云はれ。あはれいふは源氏をよめる源氏をよめる

字をよめるは源氏をよめる源氏をよめる

あはれいふは源氏をよめる源氏をよめる

うやうやあはれいふは源氏をよめる源氏をよめる

うほよあはれいふは源氏をよめる源氏をよめる

一 おのれをよめる人ぞ 和名

と。説文云。媪、無奈名於老女之称也。万葉集

いふは媪、無奈名於老女之称也。万葉集

女の何字ハ遠無奈名於老女之称也。万葉集

老女を。於無奈といふ。老女無奈遠此略

於無奈をよめる人ぞ。無奈名於老女之称也。

く。また何れをよめる人ぞ。無奈名於老女之称也。

一 おのれをよめる人ぞ 和名

く。また何れをよめる人ぞ。無奈名於老女之称也。

一 おのれをよめる人ぞ 和名

○と云はれ。あはれいふは源氏をよめる源氏をよめる

外り。玉髪ハ、髪をよめる人ぞ。髪をよめる

玉髪をよめる人ぞ。髪をよめる人ぞ。髪をよめる

親名云。髪、加被。和名。髮、少者。所以被助其髮也。俗

用髮字非也。髮者。髮之髮。見伽藍具。河海。纒

枝と名を同じけはれど、ゆさうをわたり、二枝を、葛とよまひ
多。さうしてあつた。

一 ちちり泣かぬあつたさういふ、十丁、世十樂の中よ、甚花末
写束けいん。〇と結、あはれを誤り、十束の中よ、甚
花初、あはれをさういふ。

一 清くあはれ色をいふ。あはれをさういふ。〇と結、あはれの中。
〇と結、あはれをさういふ。あはれの中。

あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。

あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。

あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。

あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。
あはれをさういふ。あはれの中。あはれの中。あはれの中。

かひ原質主母のりふつらけ。

白雪のまじつがむねを花のあざうじ 花のあざうじ

えー

白雪のまじつがむねを花のあざうじ 白雪のまじつがむねを花のあざうじ

あはれを待つてはつらき文選沈体文が山橋并歌

燃と作する外もいふやせんをたもたりのやうな歌

一 白雪のまじつがむねを花のあざうじ 十三

と接 白雪のまじつがむねを花のあざうじ

かゝる歌はあつたかゝる歌はあつたかゝる歌はあつた

一 白雪のまじつがむねを花のあざうじ 十四

と接 白雪のまじつがむねを花のあざうじ 十五

白雪のまじつがむねを花のあざうじ

一 白雪のまじつがむねを花のあざうじ 十六

かゝる歌はあつたかゝる歌はあつたかゝる歌はあつた

白雪のまじつがむねを花のあざうじ

○と接 白雪のまじつがむねを花のあざうじ

一 白雪のまじつがむねを花のあざうじ 十七

白雪のまじつがむねを花のあざうじ

一 白雪のまじつがむねを花のあざうじ 十八

白雪のまじつがむねを花のあざうじ

と接 白雪のまじつがむねを花のあざうじ

秋は田の種田けつうはかちりらふもそあまふ人けり
備う来。総角あも。まはびりひはけんうらひひけり
り入。竹川ねまき。竹川うみく。うみく。うみく。
ほぐりうもあまか。あまか。あまか。あまか。あまか。
たんうらまきあまか。

胡蝶

一 ころもいきこまづをまひけ。あまか。あまか。あまか。
白も。ニオ。○こは 古今報を。中務ねまきの家の池
よ。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。
一 何きよまづひとまおまびつ。あまか。あまか。あまか。

まきあ。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。
あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。

同中十六。長尾守意吉麻呂。詠白鷺啄木飛歌。

一 一きやうかうけ人。ハトウ。○こは 行香きく。
一 一む。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。
一 一む。○こは 信吉あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。
一 一む。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。
一 おも。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。あまか。

よけかきぎんりきおのりていづ。

一 ころのせはなほいづかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

はなの中ちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

けちおのりていづかきめいおのりていづ。

一 りとちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅 告げかき

のりていづかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

よおをりていづかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

常夏

一 ひとちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅 和名云。四聲字苑云。氷、綾

名、水、寒、凍、結、也。膳夫經云。立秋後不得領氷將水

今按也。氷

一 ちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅 今按也。氷

和名云。唐韻云。編、練、二音。和名比也。或

一 ちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅 今按也。氷

はなの中ちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

まはなの中ちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

さやうのちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

かみちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

いづかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

ゆあふとちかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

へんていづかきかきめいおのりていづかきサニウ○と梅

せし人まねがましき事なりけり女子もあはれり
 さ。獨りあはれし人あはれし人あはれし人あはれし人
 からのち何れあはれし人あはれし人あはれし人
 一 おおしきかぎりありて。四丁。〇と接。河海は。伊勢がうらまへし
 事もえり。物もあはれし人あはれし人あはれし人
 ぬき人あはれし人あはれし人あはれし人あはれし人
 けちありてあはれし人あはれし人あはれし人あはれし人
 一 いとまねがましき事なりけり。五丁。〇と接。万休寺五。山上に
 け。哀世間都住ちよ。老く人あはれし人あはれし人
 つまひよたが。〇と接。かあはれし人あはれし人あはれし人
 まえ。とまねがましき事なりけり。あはれし人あはれし人
 い。〇と接。あはれし人あはれし人あはれし人あはれし人

長恨哥

一 海とけりちりけり。四丁。〇と接。養在深窓人。不識
 一 世にたて身かろし。おのりけり。五丁。〇と接。万休寺今一
 一 和琴。ヒテウ。花。宮あはれし人あはれし人あはれし人
 一 弓六張き。〇と接。引ける。あはれし人あはれし人あはれし人
 一 張弦。天真弓六張。而調之鼓之。此神。若是飯飯井
 一 宮之玉琴社神。〇と接。あはれし人あはれし人あはれし人
 一 ねぐさ。あはれし人あはれし人あはれし人あはれし人
 一 ねぐさ。あはれし人あはれし人あはれし人あはれし人

いそよおれだ。

一 心ふしとま 十七ウ ○と梅 ヨロシト 試言より

一 福なま ちりめびたなひも。十六オ ○と梅 万葉集
卷十一。祈け字。誘け字。字も。福なまあり。願け字も。
福なまといふ。おれにちりめつらもの。福言と
いふも。玉家をいふ。自他け字。祈なたけと。ちりた人
と。祈ア甲のあり。故あり。社け字も。あそと。いひ。ちり
あひあり。と。け字も。あそと。いひ。同。彼福言も。
あつら。福なま。祈け字も。あそと。いひ。社と。名付し
あり。古今。

一 ひとかうそと 十ウ ○と梅 人けと。そと。いひ。

一 てうさいく 十ウの 小賽 和名 ○と梅 和名抄卷四。雜

藝類云。雙六。魚名。死云。雙六子。一名六采。今案。博
音博。俗云。又雜藝具云。雙六采。揚氏漢語抄云。頭
須久。呂久。乃佐。今案。万葉卷十六。い。詠雙六頭。詠
子。見。雜。頭。雙六。詩。佐。獻。と。り。頭。と。い。り。も。菜
語。り。い。い。何。う。い。い。佐。獻。と。り。頭。と。い。り。も。菜
け。字。の。ま。と。初。極。又。初。た。り。り。小。賽。け。字。和。名。り。
り。り。玉。篇。云。雙。塞。先。位。切。行。塞。賽。ハ。此。字。や。玉
篇。け。字。の。ま。と。塞。又。け。ち。り。も。塞。と。り。り。や。但。
塞。け。字。獲。得。切。敬。也。と。い。ひ。た。た。あ。き。く。り。た。獲。代
切。と。い。い。隔。也。と。い。ひ。た。た。お。あ。ま。ま。と。い。い。り。り。
と。い。い。り。り。頭。と。い。い。り。り。塞。と。い。い。り。り。能。又。六。け
菜。と。い。い。り。り。

河内縣北條郡北條郷北條村の北條氏
○と接は「あつち」のや。

一 分家わたりしつゝもつゝのつゝさした サ五ウ ○と接 元吉
家系。

ひしちの いふ夫木サ六 の漆けを具ひつゝひしちの むさし たがへ 河内又 橘 陸奥記にひしちを たがへ たる。

一 扱 サ五ウ ○と接 六帖

け ニ四ウ 白 サ五ウ 取 サ五ウ 取 サ五ウ 取

一 べ ニ四ウ 白 サ五ウ の サ七才 河粉 白氏文集 ○と接 和名云。

經粉 和名 經赤也。漆使赤 カク 所以 カク 著 類也。今按 經即 類字也。又云。文選 好色 賦云。著粉 則太白 和名 毛。

能粉ハ、名はたりのり、粉も知らるるり、
又、類粉、たりのり、河内、ひしち、
字をたつて、類考、
字をたつて、類考、

篝火

一 勢 ニ四ウ 河六帖

○と接 六帖 初の句を サ五ウ 河内

一 打 ニ四ウ ○と接 定家 サ五ウ 河内

た サ五ウ 河内 サ五ウ 河内 サ五ウ 河内

あせりやわ。

聖分

一 つらりわさるる 聖分は花ニトオ○と梅 古今よ。仁和の
ころかこころまきしけり。或るは海流流るるまきり
かきこころまきしけり。或るは海流流るるまきり
時。海流流るるまきしけり。或るは海流流るるまきり
にいつらりわさるる。

一 まきしけり。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

一 秋風の涼しき。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。
一 まきしけり。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

一 救急のびそ。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。
一 雷踏のびそ。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

一 白雲に風は吹く。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。
一 雲の影も月の。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

河 朱櫻 和名

浅緑野々花。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

○と梅 朱櫻を。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。
本草云。櫻桃一名朱櫻。和名波佐久良。一云かくはぎじ。

又木貝云。玉篇云。樺。又云。加胡仁波。今櫻皮有之。木
皮名。可以為炬者也。けい。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

らまき。本皮の炬。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。
す。六。赤人。或るは海流流るるまきり。ニトオ○と梅 万代のまきり。

櫻皮纏作流舟。二真提貫。

ふまひに今ねまあひまのいづれかひん。

約幸

一 けしきり せしきり 二丁オ河

○と接 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云

一 周礼注云 平張曰 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

一 けしきり せしきり 二丁オ河 和名云 弊 比良波及和名

よ。日如紀よ。うらやまのしめり。議のまに。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。又せまのしめり。いさむをむねぬ。

一 ちかびび。うらやまのしめり。かこい。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

あさ。うらやまのしめり。つら。うらやまのしめり。五丁オ。うらやまのしめり。

若夜。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

一 ちかびび。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。うらやまのしめり。

一かゝるもあつていふまじけりぬ 細人をおきけり
おのいふまじけり。○と林 かゝるいふまじけりいふまじけり
可もあつて。普賢は賢い。善也といふ。善業といふ。やうく
善かゝるもあつていふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
練れいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり

一うけいふまじけりいふまじけり 十一細

○と林 けいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり

一うけいふまじけりいふまじけり 十一細
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり

一うけいふまじけりいふまじけり 十一細
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり

一うけいふまじけりいふまじけり 十一細
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり
かゝるいふまじけりいふまじけりいふまじけりいふまじけり

○と録 大和物語下

一 寄物もたしむるに...
○と録 大和物語下
云々 寄物もたしむるに...
○と録 大和物語下

一 寄物もたしむるに...
○と録 大和物語下
云々 寄物もたしむるに...
○と録 大和物語下

一 寄物もたしむるに...
○と録 大和物語下
云々 寄物もたしむるに...
○と録 大和物語下

美本柱

一 げよ。そちの心を...
○と録 日本紀
幾多 同 ○と録 日本紀

考すも... 六十五

六十五... 須藤... 赤裳... 古

一... 細川...

一... 古... 須藤... 赤裳... 古

奴^ゴ合^ゴ反^ゴと^ゴく^ゴを^ゴ。は^ゴ字^ゴ。延^ゴる^ゴ式^ゴは^ゴ中^ゴふ^ゴ。お^ゴほ^ゴく^ゴら^ゴき^ゴら^ゴか^ゴく^ゴ
く^ゴく^ゴ。同^ゴ腰^ゴ帯^ゴ類^ゴ云^ゴ。緋^ゴ帯^ゴ。唐^ゴ韻^ゴ云^ゴ。緋^ゴ。同^ゴ。蒲^ゴ草^ゴ切^ゴ。与^ゴ。構^ゴ
美^ゴ織^ゴ絲^ゴ爲^ゴ帶^ゴ也^ゴ。

一 ^ナを^ナく^ナえ^ナを^ナひ^ナま^ナじ^ナあ^ナ六^ナ十^ナ才^ナ〇^ナと^ナ接^ナ

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 ^シら^シら^シく^シ人^シも^シた^シち^シあ^シわ^シら^シる^シ花^シい^シら^シら^シび^シぞ^シあ^シら^シえ^シん

一 かろふ死つて、見えぬ人にもぞ。
けむらひりいけむらひり。後にも不審うらみしつらむ。
顔をかきけむらひり。如意指
親音ひききり。頼む人へ後つて、思惟手とひききり。
つらむらひり。思惟手とひききり。

藤末葉

一 ちがひなく、そむいぬ。さむいぬ。さむいぬ。ニシウ〇と接
世はつひえお思てあはれむらひり。お思てあはれむらひり。さむいぬ。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。

一 うちくむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。

一 二月おつひにむらひり。四月〇と接。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。
あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。あはれむらひり。

一 ありあがりぬきへて下〇に接れりまをさし〜まおじと
いふまをさし〜まを信さぬり。

一 友けり〜まのどうちん〜けり。ハ丁オ何

まを白〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

〇に接 万全守十田中あり。

まを〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

一 けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり〜まのどうちん〜けり

しるべのなまのり。あまかたなり。

一 ねよちだれさ。いりておるまゝ。 十才 曲 六 姑

おるねのちねのり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

〇と梅 けさの。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

いりておるまゝ。いりておるまゝ。いりておるまゝ。

一 世のまゝ。いりておるまゝ。 十才 六

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

〇と梅 けさの。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

一 河のまゝ。いりておるまゝ。 〇と梅 六 姑 六 三 〇 〇 〇

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。あまかたなり。

とらふ方の心おぼゆる。新衣今頼まよ。

あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

一 ちかほのうらさき。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

一 ちかほのうらさき。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

一 ちかほのうらさき。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

一 ちかほのうらさき。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

一 ちかほのうらさき。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

若菜上

一 女はながむらひん。十ウ孟。おぼゆる。新衣今頼まよ。あつた御心。おぼゆる。新衣今頼まよ。

一 夫は海をこりて、思ひ寄し、終つては人をもおぼひぬ。十才〇上は、
 由ありんを、借よき情あふ人とのか、いふゆゑに、イハヒロ生るるを
 いひ、まじりて、おぼしむる言と、いふ道を知人とのおぼしむる、
 心と言ふおぼしむる、いふゆゑに、ニヒコト生るるを、
 ありま言と、おぼしむる、いふゆゑに、イハヒロ生るるを、
 信、おぼしむる、いふゆゑに、イハヒロ生るるを、
 せぬりて、

一 一、おぼしむる、いふゆゑに、十才〇上は、
 字あり、古今ま、おぼしむるの、十才〇上は、
 ありぬり、又、いふゆゑに、十才〇上は、

一 やま、いふゆゑに、十才〇上は、
 親名云、無妻曰、和名夜言、和名抄云、親夫
 如、和名夜言、親夫、然不寐
 玉篇云、寡或曰、和名夜言、親夫
 一、いふゆゑに、十才〇上は、
 一、いふゆゑに、十才〇上は、

〇、いふゆゑに、十才〇上は、
 一、中納言、いふゆゑに、十才〇上は、
 一、いふゆゑに、十才〇上は、

一、いふゆゑに、十才〇上は、
 一、いふゆゑに、十才〇上は、

さかきめけりておぼしき人。おぼしきまよひてん。 廿一才
○と接 おおきまよひてん。おぼしき人のまよひ。

一 つねに 接ひてん。 廿一才 細威勢のりてん。 何れか
○と接 つまじきまよひ。 何れか 接ひてん。 何れか 河津の

よまへ。 是れ 入るまよひ。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
とのむけり。 接ひてん 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
つゝまよひてん。

一 肉侍のんね。 廿四才 何集 日本紀
○と接 おおきまよひ。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
つゝまよひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
つゝまよひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか

一 湯のり 廿四才 ○と接 日本紀 茅二十一云。善信

阿比等。謂大臣曰。出家之途。以戒為本。願向百濟
學受戒法。

一 湯のり 廿六才 何

何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
○と接 朝忠義。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
つゝまよひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか

一 湯のり 廿一才 何

何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
つゝまよひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか
つゝまよひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか 接ひてん。 何れか

一 又よりかへりてたあなりぬ月日廿八ウ○と接 金城素

はまよむをそを裁くはなまひ物もが女人の恨^{そよ} 怪親

けうの清の惟親にけり成かざらんり。又昔家万葉よ

天地を方入るいともたまはるは伊よるなる木は木なり

ける人けむ。おぼしのあへくもけり。おほし。

一人は物もが女もまをたもくも中と物とけり人

一 清中あふく。清はうらたはまよむ。しむか。うらへり。

まやうへり。せむもかたまもんり。廿九ウ○と接 後撰集新註

いもまはるはまよむへひけり。清はたはたはけり。たよりせま

けまかぎ。

又難一云。清はまよむ。あへく。はく。おほし。けり。あふ。

たまよむ。ひびく。あまよむ。あまよむ。女清。又衣。まひひく。清よ。

さうへひけり。ひけり。こま。うらた。あへん。あへん。おほし。おほし。

まよむ。けり。昔は。こま。あへん。おほし。おほし。けり。けり。

つるまよむ。

一人はまよむ。廿二才河

人申さんぞおほし。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。

○と接 けり。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。

あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。

あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。

あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。あまよむ。

禮記尚喪篇云。禮義之經。非從天降。非從地出也。人情而已矣。和家或戸云々。

一 つゞくとあぞぬきく抄り人らきくさるん物かきくま
一 一うへしうらまるとんが世三ウ河壁代又防壁〇と按和名
抄云。釋名云。縛壁以席縛著於壁也。漢語抄云。防
壁古多縛縛壁也。防壁も。もよき山あもと讀く。壁代
みとまておる歟。

二 二具
一 一らてんけつしうさよほひ 世四才〇と按 日本紀云。弓矢
二具

一 一ゆきつた 世四才〇と按 埤埴日記より見た申すはがて
やむやうもつらぬんうと抄り人むゆきつてさるゆき
つらぬしゆつしゆゆきつたはがてをさるがらつらぬ
うへまおるわくわく

一 一人うらまるとん。抄入とりたきひきふ。世五ウ〇と按 子武家系
部二。上東つははらう。六十聖おとれひけりた。後信ふ。
抄入ある人おるさる。奥山は谷のまきわ少くをつりし。は
か。はあ武マのあまふ。

一 一おほふけ申すに。おほふ人むらうくかきりく。世八才
〇と按 ぼぼ

一 一おほふけ申すに。おほふ人むらうくかきりく。世八才
〇と按 ぼぼ

一 一おほふけ申すに。おほふ人むらうくかきりく。世八才
〇と按 ぼぼ

一 歩人命をうたぬも早しめ 四十一の 結 人命をいさるる
おきけ。結る 結りしど。たゆもささるる世はすしのち
きぬ。うらむ中。の契ぬ物と。さあけ。結る 結りし
とらる。

一 ちあはれ 清けしひら。 四十二の 結 万葉集 四

くそとて思ひけりもきたえは 枕 行本 ころもまにまに

一 ころもまにまに けりしひら 四十四 河六帖

いふまに思ひけりしひら けりしひら けりしひら けりしひら
○と結 けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら
けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら
けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

一 友とて 川の けりしひら けりしひら 四十五の 結

梅は けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

詩人 玉屑は けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら
けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

一 ちあはれ けりしひら けりしひら 四十六の 結 古今

梅は けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら
けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら けりしひら

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 何れもあつた人のちまたに
あつた。

一 ^{ウレ}ハレニテオ ○と梅 日本紀第三云 ^{ウレ}慨哉

^大大丈夫云々 ^{ウレ}慨哉 此云于黎多棄伽夜 李善秋

興賦注云 ^{ウレ}慨 既說文曰 ^{ウレ}慨 太息也 字林曰 ^{ウレ}慨 壯

士不得志也

一 かしこ人ば... ^{ウレ}世のありえり

○と梅 ぼ折意

い... かしこ人ば... ^{ウレ}世のありえり

一 かしこ人ば... ^{ウレ}世のありえり

かしこ人ば... ^{ウレ}世のありえり

待人を海... ^{ウレ}世のありえり

一 かしこ人ば... ^{ウレ}世のありえり

かしこ人ば... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

一 ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

ありえり... ^{ウレ}世のありえり

初は初也。初日のていよふか。あまのふかきひるのていよふかきひるの
白都のていよふかきひるのていよふかきひるのていよふかきひるの
さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。
けきり。

さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。
けきり。

結人まきねの結もさかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。
さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。

結人まきねの結もさかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。

あは十九おとをね。さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。

十八おとをね。さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。

けり。さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。

さかひひく。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。さかおは。

一 此の曲は、かゝる曲であらう。

○今接 小町集の二二の曲が、此の曲に似てゐる。

○今接 此の曲は、何れも、

一 此の曲は、

人々の、

○今接 小町集の二二の曲が、此の曲に似てゐる。

ある、

何れも、

か、

一 此の曲は、

○今接 此の曲は、

蜂の、

不能不、吹蜂。取意

一 此の曲は、

一 此の曲は、

日本紀、

○今接

一 此の曲は、

此の曲は、

此の曲は、

此の曲は、

此の曲は、

此の曲は、

此の曲は、

一 秋の空よりも。六十五才。〇と梅。古今よ

一 本は酒らるるの。日影をたぐりては秋のまはるけと

〇と梅。え梅葉上人の。かかるとまゝ又の。日

小松海に。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

句花より。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。あはれいし。

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。八十四才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。八十六才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。八十八才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。九十才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。九十二才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。九十四才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。九十六才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。九十八才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。一百才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。一百二才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。一百四才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。一百六才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。一百八才〇と接

一 ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。ちりり人ね。二百才〇と接

一 かゝるものもさげしひある。六十五
 けうひけりあはるる。六十六
 けりあはるる。六十七
 けりあはるる。六十八
 けりあはるる。六十九
 けりあはるる。七十
 けりあはるる。七十一
 けりあはるる。七十二
 けりあはるる。七十三
 けりあはるる。七十四
 けりあはるる。七十五
 けりあはるる。七十六
 けりあはるる。七十七
 けりあはるる。七十八
 けりあはるる。七十九
 けりあはるる。八十

一 けりあはるる。八十一
 けりあはるる。八十二
 けりあはるる。八十三
 けりあはるる。八十四
 けりあはるる。八十五
 けりあはるる。八十六
 けりあはるる。八十七
 けりあはるる。八十八
 けりあはるる。八十九
 けりあはるる。九十

一 けりあはるる。九十一
 けりあはるる。九十二
 けりあはるる。九十三
 けりあはるる。九十四
 けりあはるる。九十五
 けりあはるる。九十六
 けりあはるる。九十七
 けりあはるる。九十八
 けりあはるる。九十九
 けりあはるる。百

一 けりあはるる。百一
 けりあはるる。百二
 けりあはるる。百三
 けりあはるる。百四
 けりあはるる。百五
 けりあはるる。百六
 けりあはるる。百七
 けりあはるる。百八
 けりあはるる。百九
 けりあはるる。百十

一 けりあはるる。百十一
 けりあはるる。百十二
 けりあはるる。百十三
 けりあはるる。百十四
 けりあはるる。百十五
 けりあはるる。百十六
 けりあはるる。百十七
 けりあはるる。百十八
 けりあはるる。百十九
 けりあはるる。百二十

一 けりあはるる。百二十一
 けりあはるる。百二十二
 けりあはるる。百二十三
 けりあはるる。百二十四
 けりあはるる。百二十五
 けりあはるる。百二十六
 けりあはるる。百二十七
 けりあはるる。百二十八
 けりあはるる。百二十九
 けりあはるる。百三十

一 けりあはるる。百三十一
 けりあはるる。百三十二
 けりあはるる。百三十三
 けりあはるる。百三十四
 けりあはるる。百三十五
 けりあはるる。百三十六
 けりあはるる。百三十七
 けりあはるる。百三十八
 けりあはるる。百三十九
 けりあはるる。百四十

くもりのり人々も嬉しきほどに
 人々の心もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか

一 花もいかにほろりたるか 廿五才 〇と梅 万才廿五才

花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか

一 花の影もいかにほろりたるか 廿五才 〇と梅 万才廿五才

花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか
 花の影もいかにほろりたるか

一 花の影もいかにほろりたるか 廿五才 花法もいかにほろりたるか
 〇と梅 花の影もいかにほろりたるか
 〇と梅 花の影もいかにほろりたるか
 〇と梅 花の影もいかにほろりたるか
 〇と梅 花の影もいかにほろりたるか

一 花の影もいかにほろりたるか 廿五才 〇と梅 親もいかにほろりたるか
 〇と梅 親もいかにほろりたるか
 〇と梅 親もいかにほろりたるか
 〇と梅 親もいかにほろりたるか
 〇と梅 親もいかにほろりたるか

一 花の影もいかにほろりたるか 廿五才 〇と梅 親もいかにほろりたるか

あまのつば 花女此のうづりり、細田〇と様 古く来りけり
おほく、万世を守りて。

殊放老おぢのけりちほりて入けり可なりんかひのり

中月十日

殊送老神をあらわしむるんをまじりてひら

昔のうた

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

横笛

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

あまのつばをあらわしむるんをまじりてひら

一 女ごねのしほしほした世のかりぬいもり。又おめだ。
 うねももまねだおつる音井はまにけつたあふそまひの六丁ウ
 ○今様 あねもたまひおまついあねも持てく。あねもよもひ
 めりしおんき。あまわけく。あねのまにけつたあふそまひ。
 一 一。あねもよもひおまついあねも持てく。あねもよもひ
 あねもよもひおまついあねも持てく。あねもよもひ
 一 一。あねもよもひおまついあねも持てく。あねもよもひ
 とけらぬ。ちりあねのまにけつたあふそまひ。
 一 さうれたまをまねおつる音井はまにけつたあふそまひ。ハ丁オ 河多集万
 潜カキ上 ○今様 潜は字。方勢よまにけつたあふそまひ。理
 中。大ねまたるん。

一 一人の善行とせど悪行をなれし。白日のゆきまはける道徳
 一 世はらまのしあひらう。あねのまにけつたあふそまひ。ハ丁オ 細川弁
 一 浅らう。あねのまにけつたあふそまひ。ハ丁オ 細川弁
 ○今様 けし。何のあひらう。あねのまにけつたあふそまひ。
 一 かなり。あねのまにけつたあふそまひ。ハ丁オ 細川弁
 一 新。あねのまにけつたあふそまひ。ハ丁オ 細川弁
 ○今様 是則。果ありて。下句守て。あねのまにけつたあふそまひ。
 一 一。あねのまにけつたあふそまひ。ハ丁オ 細川弁

鈴虫

一 法華の海づる。二丁オ ○今様 法華の曼荼羅。観智

儀軌 不空三藏翻譯 弘法大師請來 曼荼羅ハ梵語。くくハ

真言。壇ハ翻ト。多義を合セ故ク。多クハ梵語を用
ルヨリ。當麻ノ曼荼羅モ俗ノツラ。密教ノ説トシ
ノ曼荼羅ヲ言フ。似テ多クハ。實ハハ曼
荼羅ト云フ。漢土ハ淨土ト變相を云フ。曼
荼羅ト云フ。曼荼羅ハ口輪ノ差別ハ。佛ハ菩薩ノ形
像ヲカケ。大曼荼羅ハ。秋也。如來ノ代ハ。文殊。普賢
代ハ。觀音。地藏。三摩耶曼荼羅ハ。三摩耶ハ本誓
ノ義アリ。曼荼羅ト云フ。ハ。善ト云フ。善ト云フ。此ノ
ハ。人々。おハ。曼荼羅ト云フ。ハ。梵字トシ。種子トカク。曼
荼羅ト云フ。ハ。中。阿。羅。漢。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
カ

ハ。種子ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
儀事業成就ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ

- 一 曼荼羅ハ。種子ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
- 一 經ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
- 一 曼荼羅ハ。種子ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
- 一 曼荼羅ハ。種子ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ
- 一 曼荼羅ハ。種子ト云フ。ハ。曼荼羅ト云フ。ハ。カ

寛吻ト云フ。ハ。カ
上音旬、久知比
下音粉、久知

良。岐くらちるわいひゆいりうすしん。辯言のまことしん。

一 きらららるるいひゆいりうすしん。ハテウ。○と結。そく
たのこころいひゆいり。延喜式中八。大敷祭祝詞云。取草
畀草乃粟。岐古語云。とほ。あはなり。倍よつこづくまに
とほま。そくいひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
そくいひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。

一 大う結。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
○と結。結。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
○と結。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。

いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。
いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。

源註拾遺巻第七

夕雨勢

一 あらゆるいひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。いひゆいり。

おかし。お末はあゝ泣き止まず。

一 又おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 おかし。お末はあゝ泣き止まず。 #四 #五 #六

一 みるじつはなほまほしきものぞいふもかたじけなくも
 のちぞきまきまらぬ心もあはれを帯ちてかきたるかくあを
 おとせぬ夕暮のけつりうすうすうてけをあらうひにけしん
 みるゝんをみたのちけをまづりうすうてけしんをあらうひにけ
 ぶらきもさけけりいものこもつねあをまづりうすうてけしんを
 かくおふゆけりうすうてけしんをあらうひにけしんをあらうひにけ
 万世のまはなりよ

右傳云昔者鄙人姓名未詳也于時鄉里男女衆
 集野遊是會衆之中有鄙人夫婦其婦容姿端正
 秀於衆諸乃彼鄙人之意弘增愛妻之情作斯歌
 讚嘆美貌也りけりあそりあか

